



表紙の人

アントニオ マッシー
Antonio Masseyさん(27)

西川登町在住・武雄市ALT(外国語指導助手)

米国・ワシントンDC出身。今年9月から、北方小学校・北方中学校・北方幼稚園で指導を担当している。

”トニ先生”と 呼んで下さいー!

10月15日、この日は武雄市ALT(外国語指導助手)のアントニオ・マッシーさんが月に2度北方幼稚園で指導を行う日ということで、その様子をのぞかせていただいた。

「ご挨拶すると「トニと呼んで下さい」とにこやかに言うアントニオさん。人懐っこい笑顔で、いつの間にか周りに子ども達の輪ができていた。



◀ 体を動かしながら楽しく教えるのが「トニ先生流」。子ども達も大喜び



武雄っ子が大好き

この日の授業は、英語で数をかぞえるのがテーマ。これまで英会話学校や民間企業でのALTの経験があるトニ先生は、あつという間に子ども達を自分の世界に引き込んでいく。「武雄の子どもは元気いっぱい、マナーもよくてステキな子どもばかりです」と目を輝かせながら話していたのが印象的だった。

実はトニ先生ご自身にも今年子どもができたそうで、いま子育てをしていることが、子ども達を教える時にも活かされているようだ。「以前と比べて、子ども達が少々言うことを聞かないことがあっても、忍耐強くなりました」と話す。

トニ先生はまだ日本語がそれほど話せないが、表情や動きで子ども達とコミュニケーションを取りながら、楽しく授業を進めていく。「私が英語を教える代わりに、子ども達に日本語を教わっている感じですよ」と笑顔を見せていた。



▲移動にはよく自転車を使う。「街で見かけたら気軽に声をかけて」とのこと



▲子ども達は毎月トニ先生に会うのが楽しみにしているようだ。トニ先生は、武雄の子ども達グローバルな視野を育むのに大きな役割を担っている



▲手づくりの教材が子ども達の心をつかむ。奥様から授業のアイデアをもらうことも

「ましがとても気に入っています」と言う。大学時代は音楽を専攻し、トランペットなどの楽器演奏もこなすトニ先生。今後は、そうした自分の特技や興味のあることを授業でも取り入れることができたら、と話していた。

トニ先生は現在、毎週北方小学校と北方中学校でも授業を行っていて、その準備などで多忙な毎日を送っている。そのかたわら、日本の伝統文化にも大変興味を持っているそう。休みの日には窯元に通って陶芸を習ったりしているとのこと。「自然が豊かで伝統文化も多く残る武雄の